

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170100923		
法人名	社会医療法人 明和会 医療福祉センター		
事業所名	グループホームさくらはうす・つばきはうす		
所在地	鳥取県鳥取市覚寺180番地		
自己評価作成日	令和2年8月20日	評価結果市町村受理日	令和2年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 いなば社会福祉評価サービス
所在地	鳥取市湖山町東2丁目164番地
訪問調査日	令和2年9月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ゆっくりとした生活の中で、入居者個々の残存能力を発揮できるように働きかけ、お互いが協力しながら暮らせるよう関わっている。・個々の希望や特性に合った活動を通して、やりがいや生きがいをもち、その人らしい生活が送れよう支援している。・積極的に屋外に出かけ買い物や立地を活かした散歩やドライブ、図書館・博物館への外出などにも力を入れている。また畑仕事での収穫、花の世話や生け花などを楽しむ時間も持つように支援を行っている。
 ・3つのグループホームでのクラブ活動等で、入居者同士の交流を深め楽しさを提供出来るようにしている。
 ・地域の方やボランティアの方との交流を楽しんだり、季節の行事や慣れ親しんだ風習なども大切にして四季折々の季節感を感じられるよう支援をしている。また本人を支え合う家族との繋がりを大切に、些細な事でも相談できる関係の構築に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームの意義をしっかり踏まえた理念を作成し、職員誰もが強く意識し、常に念頭に置いてケアをしている様子がうかがえました。利用者の入居年数は長く、生き生きとした表情で過ごされている様子からも、理念が活かされているのがわかります。コロナ禍で人との接触が難しい中、様々な作品を作ったり、人込みを避けて外出したり、畑で野菜を収穫したり…と、一人ひとりに合った支援が工夫して行われています。職員と管理者の関係も大変良好で、同じ目標に向かい、常に情報共有、意見交換をしながら、サービスの質の向上を目指されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は、職員だけでなく来訪者等にも分かり易く玄関・事務所に掲示している。職員間で、地域の中で安心して生活し生きる喜びや楽しさを感じられる支援を行えているか話し合い、実践している。	運営理念のほかにも、入居者が生活していく上での目安となる生活理念を作り、掲げている。 職員は理念を基に自分自身を振り返り、今回の自己評価も積極的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との繋がりを大切に、地域住民参加の運営推進会議や行事等を活用し意見交換を行っている。地域の小学校・幼稚園との継続的な交流があり、民生委員の協力で、様々な地域行事に参加している。	コロナ禍の中でも、公民館祭に作品を展示したり、可能な範囲の行事に参加するなど、今まで培ってきた地域との交流が途切れることのないように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議でケアの実践について報告し、意見交換の中で地域の課題についても検討を行う。認知症への理解を深める為、地域の方に向け認知症や介護保険制度の勉強会を行っている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・知見者・地域・ご家族の参加があり、日頃のサービスを細かく報告し、様々な意見を頂き、日々のケアに活かしている。他のGHの運営推進会議へ参加し、ケアの振り返りや参考の機会としている。	現在は、書面でのやり取りによる運営推進会議を行っている。日頃の様子が変わりやすくなるよう、写真を多く使うなどの工夫をしたり、委員の人数を増やし、活発な意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長・管理者を中心に、電子メールや電話での連絡・相談を行っている。 運営推進会議への出席による意見交換の機会もあり、事業所の運営にも活かせるよう努めている。	日常的に報告、相談できる関係が築かれている。 運営推進会議の委員としても様々な意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないことを基本に、自由な生活を支援している。法人内、ホーム内の委員会への参加、スタッフでの勉強会で理解を深め、転倒リスク等、医師・ご家族と十分に話し合い対策を検討している。	身体拘束をしないケアについて、勉強会を行うなど、全職員が正しく理解するように努めている。 日中の施錠は一切なく、外出する利用者には寄り添いながら見守り、一人ひとりに合った対応を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修参加を学びの機会とし、職員同士で日頃のケアの実施状況を確認し話し合う機会を持ち、対応を互いにチェックし虐待をしない・させない・見逃さない職場作りに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については、研修参加や法人の専門職(ソーシャルワーカー)からの情報提供により理解している。実際制度を利用している入居者もあり、協力し支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に、重要事項説明書に沿って丁寧に説明を行い、理解を得て契約している。制度の改定などの度に、文書・口頭での説明を行い、日頃から疑問や要望など聞き出せるような関係作りをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活で入居者の意見、家族の面会時などに意見交換を行うよう努め、家族会や運営推進会議にてご家族の意見を多く頂き、日々のケアや運営に活かしている。意見箱、苦情解決窓口も設置している。	家族の来所時や電話でのやり取りの際には、必ず日々の様子を報告し、意見等もいただくように努めている。家族から要望があったテレビ電話の活用も、現在始動に向けて準備を進めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のスタッフ会議にて、運営状況や指針の報告を行い、実践についてはスタッフ全員で話し合うよう努めている。職員全員が、運営上の役割を分担して担い、主体的に運営に参加できるようにしている。	職員は、気づいた意見や提案を、スタッフ会議の席上だけでなく、日々のケアの中で常に管理者に伝え、さらなるサービスの向上に活かしている。個別の面談も毎年1回以上行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人向上意欲評価表を用いて、職員個々の目標や取り組み状況を把握し、年2回の面談で一緒に振り返りを行う。経験に応じてステップアップできる研修制度もあり、無理なく働ける勤務体制もとれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望、経験に合わせ様々な研修に参加できる体制にしており、他職員への伝達も行う。管理者への相談や職員同士で情報を共有、相談し易い環境を大切にし、共に考え補い合える体制になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH管理者ネットワークの会に参加し、情報交換を行い、年に1~2回の交流事業を開催し、入居者同士も交流できる機会がある。相互研修や他のGH運営推進会議への参加を通じた交流がある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査でできるだけ情報を集め、過ごしやすい環境や関わりを準備できるよう努めている。初期は生活の様子に特に注意し、コミュニケーションを多くとり、安心した生活に近づけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査や見学時では心配事や相談に乗り、対応策についても提案をして安心できるようにしている。利用後は、電話やお便りを通じて入居者の近況をこまめに報告し、相談や意見交換を密に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	福祉・医療機関からの情報提供をもとに、必要なサービスを判断、利用を希望される本人・ご家族には施設見学などで、提供できるサービスや施設の雰囲気について理解した上で利用できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の生活を主体とし、職員は出来ない事をさりげなくフォローする支援を行う。入居者・職員とも一緒に生活する仲間として、助け合ったり話あえる関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りや電話等で近況や状態の変化を報告したり、家族面会時には本人の様子を伝え相談し合える関係づくりに努めている。受診・外出に家族の協力をお願いし、相互に支援する環境を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室に出かけたり、友人や知人が来訪した際には、来やすい雰囲気になるよう努めている。また個別的に居住地や馴染の場所(図書館等)へ出かける機会を作っている。	一人ひとりの希望に添った支援をできるだけ心がけている。現在、図書館へ行くことはできないが、利用者の好みを把握した職員が借りてきた本を読んで楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握した上での、環境調整や仲介を行っている。一緒に協力して活動し、楽しんで生活できるような環境作りや、気の合う仲間同士での外出など少人数で過ごす時間にも大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居された方のお見舞いに出かけたり、自宅に帰られた方に手紙を書くなど、今までの関係が継続できるよう努めている。今後のことへの相談がある際は、法人全体での相談・協力体制を整えている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の思いや希望、困り事等を聞きとるようにしている。言葉で表現できない、遠慮がある場合等も、本人の表情や反応、会話の中からニーズを導き出し、本人本位に検討している。	質問をするのではなく、日々の生活の中でつぶやかれたささいな言葉を聞き留めたり、利用者同士の会話の中から思いを読み取るなど、小さな表情の変化や態度をよく観察してくみ取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や好みや習慣などを本人や家族から聞き取りを行ったり、以前利用していたサービス機関から情報を頂いたりして、その人らしい暮らしが継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの日々の生活や心身の状態、認知症の症状等の細かな変化等を記録に残し、職員間で情報を共有したり話し合いを行い、入居者の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向、主治医や職員、その他の関係者の意見や課題などを会議で話し合い検討を行い、本人にとってのより良い生活の実現や支援になるよう具体的な介護計画を作成している。	利用者一人ひとりの生活の様子を個別に記録し、1か月の様子を把握した上で課題を探り、介護計画の作成に活かしている。介護計画はできないことを見つけるものではなく、できることをもっとできるように、暮らしを組み立てることに役立つものとなるよう心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活動状況、介護サービス提供、1日の様子などを記録し、職員間で情報を共有している。それを元に課題を把握したり、今後の対応を考えたりして介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	糖尿病の方には管理栄養士による栄養指導を行い、嚥下機能の低下の方には食事形態の変更など個々の状態に対応した支援を行なっている。また、趣味や特技を活かしたクラブ活動も実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館・博物館等の公共施設の利用や定期的なボランティア、地域の公民館祭や運動会・納涼祭等に出かけ交流を行う。また、民生委員や園児との交流会等、地域のイベントを、楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の意向に合わせ、主治医を決めている。又入居者個々の状態に応じて外部の医療機関へも受診がスムーズにいくよう主治医より紹介状を頂いたり適切な医療が受けられるよう支援している。	現在、コロナ禍により家族の協力が得にくい状況のため、同行受診支援を行っている。本人や家族の希望に添ったかかりつけ医での受診ができる。また、併設の病院の認知症専門医から、適切な医療が受けられる体制も整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良や気になる症状がある時には、隣接病院のGH担当の看護師に相談し、対応してもらっている。また、夜間や休日などにも相談できる病棟が決まっており協力体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護連絡表を作成して情報提供し連携を図っている。入院中もソーシャルワーカーや病棟担当者や情報交換したり、必要に応じて面談するなどして退院に向けた準備をしたり、GHでの生活継続が可能かどうか判断している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、法人全体でその人に合った環境で支援する方針を、入居時家族に説明し理解して頂いている。状態の変化等、その都度家族と面談をする機会を持ち、主治医やソーシャルワーカーと連携し希望に沿えるよう努めている。	利用者の誰もがグループの一員として楽しく生活することを目指したケアを行うため、終末期の支援は行っていない。このことは入居時に家族にも説明をし、理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えてマニュアルを作成し、会議でも話し合いをしている。救急蘇生法などの研修会や訓練にも各職員が参加し、その都度伝達し実践できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、定期的に入居者と職員で避難訓練を行い、またビデオ視聴による災害時の対応も学んでいる。火災報知器や消火・通報装置の設備もあり入居者や家族の安心に繋がっている。	火災や地震、水害等で利用者が対応できるように、対応ができるよう、勉強会を定期的に行っている。 保存食、水、オムツ等に加え、停電時も想定してランタンなども常備している。 夜間を想定した避難訓練も実施している	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時はさりげない声かけを行い、プライバシーに配慮しカーテン等を使用、入浴時は羞恥心に配慮し同性介助を行う。接遇や倫理等の勉強会等も行い職員間で人格に配慮した対応に努めている。	本人もなかなか気づきにくい不適切ケアについての勉強会を定期的に行っている。Eラーニングでの研修も行い、プライバシーに配慮したケアの実践に全職員が取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から希望を引き出せるよう関わり、実行に繋げている。希望を表現できない方にも、思いを汲み取るよう会話したり、本人が選択できるような方法で関わり、自己決定できるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望の活動がある際には、他の業務を調整するなど工夫し、実施できるように対応している。入居者個々の過ごし方が違って、本人の意向に沿った活動やペースに合った生活を支援できている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の美容室等で定期的に髪を整えたり、希望の服の購入などの支援している。外出の際には着替えたり、化粧をしたり等おしゃれを楽しめるよう働きかけを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立・買物から食べたい物を一緒に選び、調理、盛り付け、片付けも必ず入居者が参加している。季節感のある料理、行事食・おやつ作り等を楽しめるよう献立を工夫し支援を行う。	献立は、担当が一週間分作成し、管理栄養士からチェックしてもらっている。食事の準備や後片付けを利用者が積極的に、楽しみながら行っている様子が見えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士のチェックもあり、バランスの良い食事を提供している。好みの飲料や飲み易い物、お茶ゼリー等を取り入れ水分量の確保に努めている。また個々の状態に合わせ主食や副菜の量に配慮したり食べやすい形状で提供を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に合わせた声かけや見守りにて、毎食後の口腔ケアを実施している。義歯の消毒も週2回行い、入居者に向けた口腔ケアの研修会も実施する。また必要に応じた定期的な歯科受診を支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を把握しながら、個別性に合わせてトイレへの誘導や声かけ、パット類の交換を行っている。失禁の無い方は布パンツに移行できるよう支援している。	個人の記録表に記載された排泄状況を確認しながら、トイレへの誘導や声掛けが行われている。 入居時、リハビリパンツだった利用者が布パンツになるなど、自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の生活の中で家事活動や外出への参加、体操などにより、自然に身体を動かす機会が持てるよう支援している。また便秘傾向の方には、乳製品の使用や水分摂取を多くするよう働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望や身体的状況に合わせて、いつでも入浴できる体制を整えている。又羞恥心に配慮し同性介助をしたり、指圧やクリーム塗布、入浴剤の使用や季節感のある柚子湯を行う等の工夫をしている。	基本的に利用者の希望に添った時間に入浴できるように努めている。拒否される利用者には、タイミングや声のかけ方を工夫して、スムーズに誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	読書、新聞を読む等の習慣を継続している。個々のペースに合わせ活動を行い、疲れた時には休息もできるように配慮する。日中の適度な運動や活動への参加で生活リズムを安定させ、安眠へ繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬については説明書等で内容を把握し、処方変更時は内服開始後の症状の変化等を観察している。状態に合った適切な処方となるように、日頃の様子や血圧等の数値を主治医へ情報提供を行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別的にやりがいを持てる活動を探り、趣味の継続や特技を活かした人形作り、裁縫、川柳、塗り絵等の作品作り、園芸等も楽しんでいる。3GHのクラブ活動での交流や戸外での活動で、気分転換等も行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に買い物や散歩の外出機会がある。家族の協力で、外出や外泊に出かける方も多くある。季節の花を見に出かけたり、馴染の場所や思い出の地などにも出かけ外出の楽しみを大切にしている。	コロナ禍の中でもできる外出支援を積極的に行い、利用者や利用者家族にも楽しんでもらっている。日常的に近所を散歩したり、裏の畑で野菜を収穫するなど、天気や利用者の体調に配慮しながら支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が行える方は財布を所持し買い物も行い、外食支援時に自分で支払いもしている。使用状況は家族に報告している。金銭管理が難しい方も、お小遣いから買いたい物を買えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ちご家族と連絡する方もある。希望に合わせて、電話の利用を支援し、家族や知人と連絡できるようにしている。年賀状等を出し、手紙などが届いた際には返事が書けるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場所の認識がしやすいようトイレや浴室に表札を貼り、暦や季節の貼り絵等を掲示し、季節感が出るよう工夫している。温かい雰囲気作りや生活感(調理の音、匂い)のある環境作りに努め、また快適な空間となるよう湿度や温度の調整も行う。	共用空間は、明るく清潔に保たれ、棚や壁には利用者の写真や書、季節感を感じるちぎり絵などが上手に展示されている。利用者の個性に合わせて、一人でゆっくりできる空間もあり、誰もが居心地よく過ごせるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆と過ごしたい時、1人でゆっくりしたい時に自由に行き来できる談話コーナーを設けて、自分のペースで過ごせる工夫をしている。写真や季節の花を飾り集まって会話をしたり、花の手入れをする事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染の物や家族や思い出の写真等が持ち込まれた居室作りをしている。個々の趣味や生活に合わせた本やお花、お仏壇等、入居者が大切にしている物(本人形・ミシン等)に触れられる環境となっている。	居室の入り口には、遠くからでも見やすい手作りの名札が掲げられている。室内には使い慣れた道具や思い出の写真等が飾られ、落ち着いて穏やかに過ごせるように工夫されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置等は、入居者個々の状態を考慮し設置を行う。施設内は手すりも多く安全に移動できるようになっており、居室・トイレ・浴室等は分かり易い掲示と声かけで、自分で動く事ができるようにしている。		